



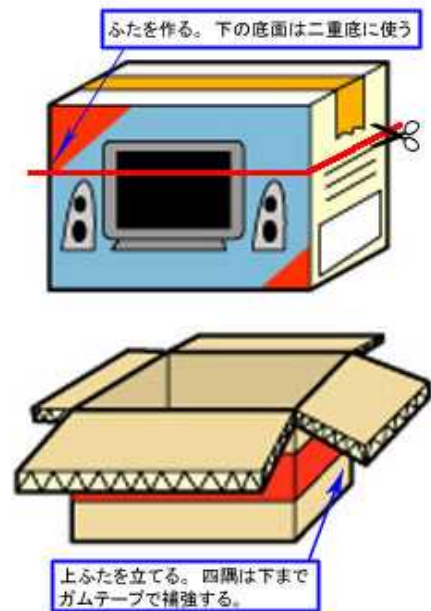
段ボールでたい肥を作ろう！

ごみの有料化が始まり、分別に苦労されていることと思われます。
きちんと分別をしてみると、「燃やせるごみ」の多くが「生ゴミ」であることがわかります。
コンポスト容器や電動生ゴミ処理機を使っている方もおられますが、この「段ボールコンポスト」は
簡単に作れ、臭いもそれほどでもなく、安価で処理することが出来ます。
完成した堆肥は、家庭菜園やガーデニングなどにも使えます。

材 料

- ・段ボール箱(みかん箱程度の大きさ) 2箱
*1箱は、フタを作ったり底を二重にするのに使います。
- ・ピートモス 7.5ℓ
(ホームセンターで15ℓで500円程度)
- ・もみがらくん炭 5ℓ
(ホームセンターで10ℓで400円程度)
- ・上げ底するもの
*角材やレンガ、すのこやビール箱など

箱の中に、ピートモスともみがらくん炭を3:2の割合で
混ぜて入れます。全体の量は箱の深さの3分の2程度
入れます。これを基材といいます。箱の大きさによりそれ
ぞれ基材の量を調整して下さい。



毎日の管理

- ・温度が15℃以上となる場所に置きます。(屋内でも可 - においが気になる方は屋外へ)
- ・通気性を良くするため床面から浮かせます。壁からも5cm程度離して置きます。
- ・生ゴミを入れ、ヘラやゴム手袋でしっかり混ぜ空気を取り入れます。(水切りは特に必要なし)
- ・生ゴミはなるべく新しいうちに、ゴム手袋で小さくちぎりながら入れると、分解も早いです。
- ・1日500g(三角コーナー1杯位)処理できます。
- ・2週間ほど経つと、微生物の活動が活発になり、温度が上がってきます。
(最初のうちゴミは分解せず温度が上がりますが、心配いりません)
- ・防臭、防虫、保温のため、必ずフタをかぶせておきます。

理想温度は40度程度です。温度が上がらないと生ごみは分解しません。また温度が高ければ虫も寄りつきません。温度を上げるためには米ぬかや使用済み天ぷら油などを一緒に入れると温度が上がりやすいようです。

臭いは、山の土や腐葉土、軽いカビ臭があります。

基材がべたついたり、かたまりが多くなったら投入を止めます。

屋外に置く場合、雨にあてないようにすることで箱が長持ちします。

(段ボール自体が通気し水分調整するので、ビニールはかぶせないこと)

上手に管理すれば、3ヶ月くらい処理できます。その後1ヶ月くらい寝せると、たい肥として使えます。

投入しない方がいいもの

- ・塩分を多く含むもの(塩鮭、塩辛、漬物、ぬか漬の床など)
- ・梅干などの種
- ・鶏がらや豚骨、貝殻
- ・防腐剤を塗布してあるレモンの皮など
- ・とうきびの芯やタマネギの皮は、分解するのに時間がかかります。

Q & A

臭いがあります。

- ・十分にかき混ぜないと酸素が不足し、臭いが出ることがあります。1日1回はかき混ぜましょう。
- ・魚のはらわたやイカの内臓を多量に入れると、きつい臭いが出るようです。
- ・臭いが気になる場合は、換気の良い場所に移して1~2日置いておくとおさまります。
- ・ハーブやミント、茶殻やコーヒーかすを混ぜると臭いが和らぐようです。

虫・カビが発生しました。

- ・三角コーナーなどに生ごみを2・3日置いておくと、ハエが卵を産み付ける場合があります。生ごみは早めに投入した方がよいようです。
- ・40℃以上に内部の温度を上げると、ほとんどいなくなるようです。
- ・寒い夜などは、お湯の入ったペットボトルを箱の中に入れて置くと良いでしょう。
- ・かき混ぜを十分に行うと、発生しにくくなります。
- ・乾きすぎの状態が続くとダニが出やすいようです。ダニが出た場合は中止して下さい。
アレルギー体質の方はお気をつけ下さい
- ・一面に白いカビが発生することがありますが、好気性の微生物で生ごみの分解に役立っています。

留守にします。どうしたらよいですか？

- ・よくかき混ぜて、できるだけ涼しい所に置いておきます。

その他

- ・次回始める場合は、新しい基材の中に前回使用した基材を混ぜ込むと早く分解が始まります。

環境活動にもつながります

温度が上がると、みるみるうちに生ごみが消えていき、ごみの減量化を実感できます。軒下やベランダ等、身近なところに置けるので家族が関心を持てる点も魅力です。できた堆肥を使い、畑で育った野菜をおいしく食べることを通して、「いのちの循環」を理屈ぬきで学べる機会になります。また、生ごみは焼却処分をする際、水分が多く含まれていますので、多量の熱が必要となります。

最後に... あくまでも気軽に楽しみながら、無理をしないことが大切です。

「失敗しても、土に埋めればいいや」くらいの気持ちで...